

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	胆嚢結石術前の総胆管結石症に対するマネージメントについての検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2022年 7月 1日 ~ 終了 西暦 2023年 12月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	総胆管結石症 (1435 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2018年 4月 1日 ~ 至 西暦 2022年 6月 30日
研究概要*	<p>総胆管結石症における胆嚢摘出前の胆道ドレナージについての具体的なマネージメントに関しては、ガイドライン等で推奨される方法がなく施設毎によるのが現状である。胆道ドレナージチューブを留置すると細菌感染を来す可能性もあり、以前当科では胆嚢摘出術前に切石を行い tube は留置しない方法としていたが、胆嚢摘出術前に再落石を来し再度 ERCP を要する症例も散見された。外科的な観点で周術期に胆道内圧上昇を予防する目的もあり、現在当科では胆嚢摘出前に tube を留置し、術後に切石を行っている。総胆管結石症に対する胆道ドレナージ方法についての術前マネージメントとして、手術前に切石を行う方法と術前には胆道ドレナージチューブを留置し術後に切石を行う方法と、どちらがより望ましい治療法であるのかについて検討する。</p> <p>2018年4月から2022年6月までの4年3か月間を対象期間としデータベースにて「結石・ERCP」で検索した際に抽出された症例の内、胆嚢摘出術の方針となった総胆管結石症例のみを選択した。そのうち胆嚢摘出後症例や、その後胆嚢摘出術実施に至らなかった症例を除外した。</p> <p>調査項目としては、従来法での胆嚢摘出あるいは、現行法での EBD 抜去に至るまでの総 ERCP 回数・手術前後での胆道トラブルの発生件数・外科の総入院日数・胆嚢摘出術の周術期合併症発生件数・初回 ERCP 時の病態(胆管炎/膵炎/胆</p>

別紙第2号様式

	<p>嚢炎/感染なし)・術直前の ERCP 時に留置した EBD tube の径・術前・術後に実施した EST 処置・総胆管結石径をカルテ上から調査する。</p>
<p>倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*</p>	<p>連結不能匿名化を行う。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。</p>
<p>研究の問い合わせ先*</p>	<p>大阪労災病院消化器内科 岡本 明之、法水 淳</p>

* 記入必須項目